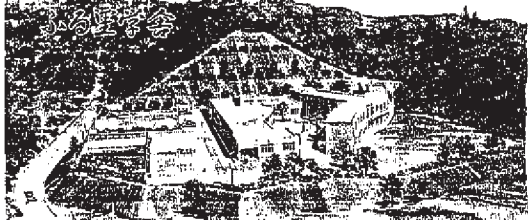


社会福祉法人 佐啓会



佐 啓

社会福祉法人 佐啓会 ふる里学舎

〒290-02 市原市今富1110-1

☎0436-36-7611

発行者 里 見 吉 英

編集者 三 股 金 利

息子はスーツでご出勤

中村 君子

春の花が庭先に華やかさを添えてくれた頃、真治はふる里学舎を退所しました。

あれから五ヶ月。その庭はすっかり夏の姿に変わってしまいました。報告が大変遅くなり、申し訳ありません。というのは学舎に報告後、真治にどんな変化がでてるのか心配でしたし、偽りは書きたくないからでした。今なら進路変更して正解であったと自信を持って話せます。それまでの思い悩みを書き表せられないほどでした。

真治がさみしそうに学舎を去る姿がちらつき、いやな気持ちになったりもしました。でもその退所日は玄關に先生方がずらりと並び代表の鈴木君が花束をくださり、又、真治も一人一人握手をしたりで、ムード満点の退所日でありました。私達親子は終始笑顔でうかべていましたが、本当は嬉しくて涙が溢れるばかりに感激していました。

さて、五井福祉作業所に通所の前日、家族の心配は最高潮でした。そして朝、廻りの人の心配は余所に、スーツ姿で食堂に入ってきた時は、みんな拍手をしてくれました。真治もみんなのその様子がきつと嬉しかったのでしよう。

入所式は、堂々として、もう何年もここに居るような態度で皆さんの前に進みました。親の私は新人らしく、もう少し羞らいがあってもいいのに、なんて思いましたが、普段の真治の姿をご存知の方はなるほどと思われるでしょう。

作業所に通所してから暫くして個人面談がありました。仲間と打ち解け合い、仕事も一生懸命やって居る様子でした。「四年間の施設入所の訓練が今の真治君の姿を作り、とてもすばらしいモデルケースであり、今後このパターンの作業所入所ができるよう職員で話しています。」とおっしゃっておいりました。私達の量り知れない程の更生訓練がふる里学舎で行われていたのだと、改めて痛感し、感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、四ヶ月目、ちよつとしたハブニングがありました。親戚の結婚式がハワイであり夫婦で参加することになり、真治をショートステイさせて頂くことになりました。自分の「ふるさと」ですから安心しておあずけしました。その節は大変お世話になりました。私達も無事帰国し、学舎に迎えに行くことになり二週間が楽しかったことが、その顔でわかり安心しました。帰宅後、二日目、三日目と全く作業所に行く様子がない。私の勤務先に長男から「お母さん何とかしなくちゃあ」と心配してTEしがありました。真治のかたくなな態度はハワイの楽しさを知っているだけに私達にやきもちをやり一杯の抵抗をしたのでしよう。帰宅後スキップが足らなかつた事を反省するため一時間位のドライブをし、マーケットで真治の好きなものを買ってあげると、すっかり機嫌が直り明日は通所すると私と誓いの握手をしました。夕食時も又、家族と握手。そして四日目無事バスでいつもどおり通所できました。やれやれの気分ですが家族一同反省させられた真治の抵抗でした。言葉は話せなくともみんな解っているのですね。



毎月、月末に給料をもらってきます。それと同時に保護者会費の納入袋が入ってくるので、私の中から払おうとするとすごく怒りさっさとしまつてしまいます。四、

五、六、七、八と五ヶ月分の給料袋が自分の部屋に重ねてあります。時々ファミコンのソフトの広告をもって、そのお金で買い物に行こうと催促されますが、五千円札は持たないで、いつも千円札、なんの事はない、本質的にケチなのですよ。ごくたまにビールを買ってこいとお金を出します。主人はハイハイと笑いながら買ってきてみんなで相伴に預かります。九月になったら、なんとか説得して、食事に行き、そのお金を頂戴しようと笑いながらみんなで話しています。今の我が家の朝は見事です。スーツ姿の男性が三人揃うのですから。頼もしい(?)サラリーマン達のご出勤です。その後、作業所での作業の様子は何ってはおきませんが、毎朝、真治起きなさい、の一言で起床ができ、食事、歯磨き、トイレ、等々一週りの出勤前の大人の日課を無事こなし、バスの時間が待ち遠しい位に喜んでいく真治の後ろ姿で楽しい日々を過ごしているのだらうと想像できます。

今まで、親の方が周囲の目から逃れていたのかもしれない。家から通所が変わって、真治がバスで通所する時や、外出の際、みんなの目が温かく感じる事ができるようになりました。自分たちが変われば、廻りの方たちも変わってくれるんだとようやく実感できたのです。長い道のりでした。

だからだと書いてしまいましたが、とにかく真治は元気で五井福祉作業所に通所しています。ふる里学舎に在籍のご父兄の皆さん、進路の件でお話があった時は勇気を出してそれに臨んでみませんか。よりすばらしい子供の笑顔が見られる時がくるかもしれません。真治に続き、新しい道にチャレンジできる子供さんが出てくる事を願ってやみません。

先生方が二週間以上の日時を使い自宅から作業所、作業所から自宅のバスの乗降や、プザの指導をして下さり本当にありがたかったことを深く感謝申し上げます。有難うございました。



山口さん家の帰省日記

(復活編)



十六日夜、明日持つて行く換便の便をとった。近頃の我家の便はこの便出しが実にうまくなった。新聞の折込広告の紙数枚にビニール袋をかけトイレで殿のもち上げた尻の下にさし入れるのは私、と殿はブリッと一発だけごく少量、いいものを食ってできたかくわしきやつをご排泄あそばせるのである。殿が男でなく女の子だったら尻を見るのも楽しいか、などと思いつつながら妻のところへ持つてゆく。待つていた妻はわりばしでつまんで容器につめるという次第で……こうしてこの便とりでわが家のメンバー三名の一人の殿と一人の下男、一人の下女のそろった今年の夏休みも終わりを告げたのであった。



この夏休みもこうやはしつかりこだわりの日々をすごした。家の中の、家常茶飯のものひとつまたひとつが少しずつ彼の管理下に移って行った。

新聞、トイレットペーパーとテレビはもうながいが、今年はあらたに新聞の折り込み、広告写真、タオルが加わり、またエアコンも時間の問題である。この夏休み中、私と妻は自由にタオルを使わせてもらえなかった。愛する妻としやべることもダメ。歌は禁止……いよいよ独裁者は君臨して統治するぞ……とその本性をあらわしてきたようである。

「多国籍軍」

ロシアをゆく

長尾

篤

私の家族はモスクワの空の下に住んでいる。二年前、何度となく一緒に来ないかと誘われたが断り日本にとどまると決めた。「今度遊びに行くから」という言葉だけで。

いつか遊びに行こうとは考えていたが、今年の夏、急遽行かざるを得ない状況になっていった。施設長、宮崎を引き連れて。

十時間飛行機に揺られロシアへ着陸した。ビジネスビザのためか、なんなく入国でき迎えて来ている両親を探すと目の前に父親が立っており、親子の対面を一年ぶりに果たした。しかし感動とは裏腹に父親の初めの言葉は、私の胸と腰に手を当て「背筋のばせ!」というもののだった。私は自分の頬が赤くなつていくのを覚え、背中から施設長・宮崎のほくそ笑みを感じた。この瞬間からモスクワの空が広がり始めた。

モスクワは白夜に近く、十一時頃まで明るく眠れない日々が続いた。男三人揃うと自然と酒が付き、ウオッカでのどを潤し、キャビア、ポルシチに舌鼓をうった。

市内観光では、妹が通訳兼ガイドをかっててくれたため、我々はアジアの多国籍軍となつてしまった。チャイニーズの施設長・日本男子の宮崎・朝鮮人の妹・そしてモンゴリアンの私である。(ロシア人から見ると我々の顔はどうもそう見えるらしい) 主に美術館を回ったものの、私の五感をくすぐったものはスイカ売りの露店や路面電車、いたるところに立つている警官の姿であった。

その夜、「白鳥の湖」観劇のため、サンクトペテルブルクへ行く寝台列車のコンパートメント

トと呼ばれる部屋に乗り込んだ。コンパートメント、その響きの良き、三人だけの旅という冒険心も手強い、心が躍るような気分であった。しかし、そんな気分はすぐかき消される。乗る前に母や妹から列車にまつわる恐い話を聞かされていたため次第に不安が広がり、部屋に鍵をかけ、朝まで絶対に開けないと三人で誓い合つた。疲れていたので、施設長はすぐ眠りにつき、宮崎からもまもなく寝息が聞こえてきた。私はこの空間で一人取り残されてしまい、絶えず忍び寄る恐怖と闘わなければならなかった。隣の部屋へのノックも自分の部屋へしているのではないかと感じ、眠れないまでも布団を深々とかぶつた。ノックの音で目覚める。車掌さんであった。外はすでに明るく私は恐怖が去つたことを知り安堵した。

ロシアの一週間は様々な事を体験した。ロシア文部省の部長さん立ち会いのもと、ろう学校の見学、在ロシア日本人商社マンの別荘での一日、トロリーバスで、東洋人であるためか検札官から罰金を取られ(ほとんどが賄賂だそう)タクシーは行きと帰りで運賃が二倍。地下鉄はおもちのコインで乗り放題。そして何といても一日が長い。言葉の重要性、知らないことからくる不安、国の現状、そして家族が二年以上もその事と切つても切れない中で生活している事を。

最後にロシアの女の人は冷たいと感じたが、その中で時折見せる笑顔を見たとき「ロシアもいいなあ」と感じた。

「大ロシアのイメージは崩れた。」

施設長からの言葉のおみやげ。外国と施設は行つてみなければわからない。
次号お楽しみに。

